

ぬま健司の提言詳報(第10弾)

2018.3.20

一般質問 一問一答



- ★施政方針の説明会・報告会の開催を
- ★次期市長は基本構想策定の重要任務
- ★小中学生の血液検査、特定健診を
- ★保健福祉部と教育委員会の連携を
- ★中学生対象のピロリ菌検査を
- ★市長任期中の大事な下準備

- テーマ① 「施政方針・まちづくりグランドデザイン発表会の開催を」
- テーマ② 「子どもの健康づくりは持続可能なまちづくりへの投資」

2018年6月1日

福岡県古賀市議会議員
奴間 健司





○奴間 健司 皆さん、こんにちは。「ふる里の未来に希望を」、会派・希来里の奴間健司です。きょうは、古賀市でも震度5弱を経験した福岡県沖地震から13年目の日。災害への備えを改めて確認したいと思います。国会は、森友学園に関する決裁文書の改ざん問題で大きく揺れ、安倍政権の支持率は急落しています。古賀市議会では、希望の持てる未来のための建設的な議論を行いたいと思います。

古賀市の次期市長選は11月18日告示、25日投開票と決定。中村市長の任期は残すところ約9カ月。古賀市の未来像をつくり上げることは、今市政にかかわる私たちの共通の責務と言えます。きょうの一般質問も、その作業をさらに一歩進めることに貢献できれば幸いです。

きょうの第1のテーマは、「施政方針、まちづくりグランドデザイン発表会の開催」です。情報の共有と対話、これは少子超高齢社会を視野に入れた持続可

能な古賀市の成長のためには必要不可欠です。そこで質問します。

1、施政方針の発表会開催を改めて提言するがいかがか。

2、市長自らが定期的に記者会見を行い、インターネットで中継、録画を配信すること改めて提言するがいかがか。

3、大野城市や久山町を参考に、市民ニーズを的確に把握するアンケート実施を改めて提言するがいかがか。

第2のテーマは「子どもの健康づくり」です。私は1年前、2017年度を健康寿命延伸元年にすることを提言しました。その後、保健医療2035推進本部の設置や健康づくり100人ワークショップ、特定健診自己負担500円等々の取り組みが進みました。今回、私は子どもを対象とする健康づくりを取り上げます。子どもたちの体にはかなり深刻な課題が生じていること、健診受診率が低迷している中で子どもの段階から取り組むことが効果的であることなどがその理由です。そこで質問します。

1、子どもたちの健康状態の現状認識。

2、健康寿命延伸の取り組みにおける小中高生に対する対策。

3、小中学校での血液検査等の導入による健康状態把握と保健指導の実施。

4、小中高生に対する公費によるピロリ菌検査と除菌治療の導入。

以上、市長に答弁を求めます。



○中村 隆象市長 奴間議員の1件目の御質問、「施政方針・まちづくりブランドデザイン発表会の開催を」についてお答えします。

1点目についてお答えします。施政方針については、議案の記者発表の際に報道機関へ説明しておりますし、公式ホームページにも掲載しております。さらに、市民の代表である議会に対する施政方針演説や会派代表等による質疑のようは生中継、録画配信されております。今後ともこのような形での発表が適切であると考えており、これまでと違った形で御提案の発表会を行う考えはございません。

2点目についてお答えします。市政情報につきましては、毎月記者懇談会を開催し、マスコミへの情報発信を行っております。このほか出前講座である市長と

語るまちづくりに積極的に出向くとともに、各種行事や議会広報等さまざまな機会を通して情報発信を行っており、今後も継続していきたいと考えております。御提案のような記者会見の中継、録画での配信は予定しておりません。

3点目についてお答えします。本市では、総合振興計画策定時の市民アンケートを初め、個別計画策定の際には極力市民アンケートを実施し、市民ニーズの把握に努めております。

続いて、2件目の御質問、「子どもの健康づくりは持続可能なまちづくりへの投資」についてお答えします。

1点目についてお答えします。小学生までの肥満傾向は、全国や県平均と比べて高く、中学生では逆にやせ傾向が目立ちます。さらに、高校生では血圧の高い生徒が見られるなど、かつて成人病と言われた生活習慣病は今では子どもから対策が必要であると認識しています。子どもの生活習慣は、家庭や地域社会環境の影響を受けると考えられます。

2点目についてお答えします。本市では市内の小中学校、高校などで骨密度測定を通じた健康学習を実施しております。また、市内3中学校では性教育を実施し、性の知識とともに性感染症やがんなどにも触れ、自身の体や心を大切にし、守るための教育として行っています。こ

これらの取り組みは、全て子どものときから望ましい生活習慣や健康管理について知識を得、実施しながら習得し、健康の自己管理意識を高めていこうというものであり、健康寿命延伸の基礎となるものです。今後も、学校や家庭と連携し、取り組みを定着させることが重要と考えています。

3点目についてお答えします。小中学校における血液検査の導入については、粕屋医師会や養護部会、校長会、予防健診課と協議し、総合的に判断した結果実施しておりません。身長、体重、心臓検診の結果から生活習慣病のリスクのある児童生徒に対して、粕屋医師会と連携しながら保健指導と精密検査の受診勧奨を今後も続けてまいります。

4点目についてお答えします。小中学生や高校生においては、自分の健康は自分で守るという予防意識、自己管理意識の向上に力点を置いており、公費によるピロリ菌検査を実施する予定はありません。

○奴間 健司 再質問に入る前に市長にお尋ねします。先週のNHKテレビがサッカーチーム・Vファーレン長崎の高田明社長を取り上げていました。ジャパネットでおなじみの高田社長です。高田社長は存続の危機に直面していたチームを立て直し、何とJ1初昇格を成し遂

げております。私はこの番組を見て大変関心しましたが、市長はごらんになったでしょうか。

○中村 隆象市長 話は聞いておりますが、番組は見ておりません。

○奴間 健司 高田さんは、雨の中応援に駆けつけて行列しているファンの姿を見るなり、入場受付の台を増設しなさいと、社長みずからが指示をしました。ファンの皆さんが少しでも早く入場できるようにするためでした。大事な試合のときはファンの前に立ち、特別席ではなく、みずからハンドマイクで声を枯らして一緒に選手たちを応援しました。また、選手との懇親会やカラオケ大会も初めて行い、信頼と結束を固めたそうです。このトップの経営哲学がJ1初昇格をもたらしたと言っても過言ではないと思いました。社長が変わればチームが変わる。まちづくりも同じ理屈ではないかと思いましたが、市長、何か感じないでしょうか。

○中村 隆象市長 経営者としての直観力、先見の明というのはすごいなと思いました。

○奴間 健司 カーリング選手の言葉じゃないですが、私が紹介して「そだねー」と市長から返事をいただけたらなという淡い期待は持っていたところでございます。

なぜ施政方針説明会を開催しないのか

それでは、施政方針説明会について再質問に移ります。

この件は、2017年3月議会でも提言しましたが、そのときの答弁はですね、議会に報告し吟味してもらうことに精力を注ぎたいというものでした。先ほどの答弁も結局同じ、考えていないということでしょうか。

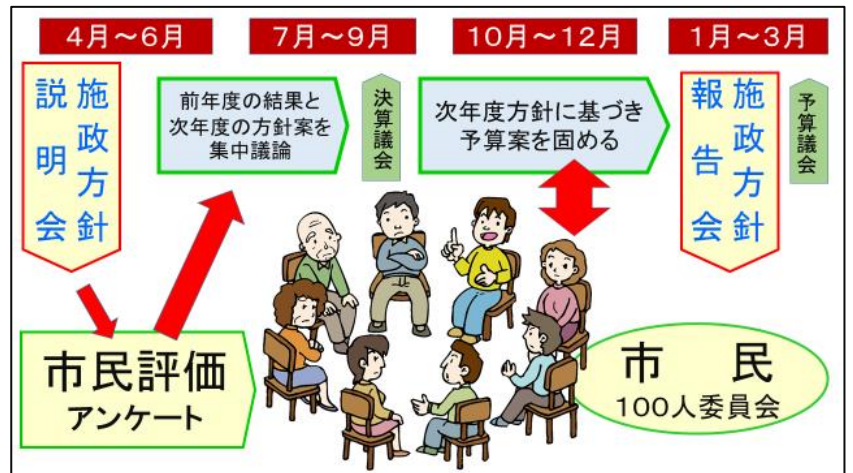
○中村 隆象市長 施政方針の

発表会ということについては考えておりません。ただ、ちょっと最初の答弁で言い忘れましたけれども、毎年区長会では一応時間をとって施政方針については説明をさせていただいておりますし、くどいようですけれども、いろんな機会を通じて、特に年度初めのときには施政方針はなるべく多くの方に知ってもらうように説明はしております。

○奴間 健司 なぜこの発表会にこだわるか。説明しますので、画面をお願いします。

これは、私がめざしたほうがいいと思う市政運営の1年間のサイクルです。年度初め、一番左側ですが、施政方針の説明を行います。また前年度の評価を行うために、早い時期に市民評価のアンケートを行います。その結果を参考に、夏ごろには前年度の総括と次年度の方針に

ついて、集中的に議論を行います。そして、秋には次年度の方針に基づいて予算を編成します。年度末には、その1年間



の施政方針の結果について市民に報告します。

ですから、このサイクルは情報の共有と対話がポイントです。先ほど市長が答弁しておられましたが、いろんなところで報告しているという、そういったことではなく、1年間のサイクルの中で意味があるということを申し上げたいわけです。

私は、これが実現すれば古賀市の空気は一変する。風通しがよくなると私は確信していますが、市長いかがでしょうか。

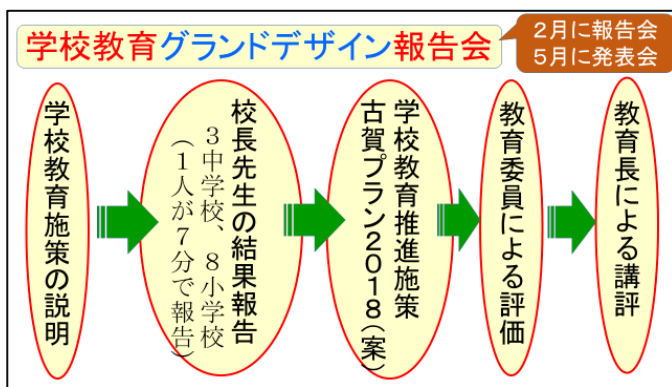
○中村 隆象市長 反対するものではありませんが、ちょっと思い出したのは、私市長になってすぐですね、市長と語るまちづくりというのを小学校区単位ですらっと回ったことがあります。特に施政方針とかを説明して回ったんですが、1年目はかなり人が来られました

けれど、2年目からはさっぱり来られなくなりましてやめた経緯がございます。ですから、こんな考え方もあるということでは受けとめさせていただきますが、どうかなという感じもします。

学校教育グランドデザイン説明会と 同じスタイルで施政方針説明会を

○奴間 健司 ここで教育委員会が頑張っている様子を紹介します。

画面をお願いします。



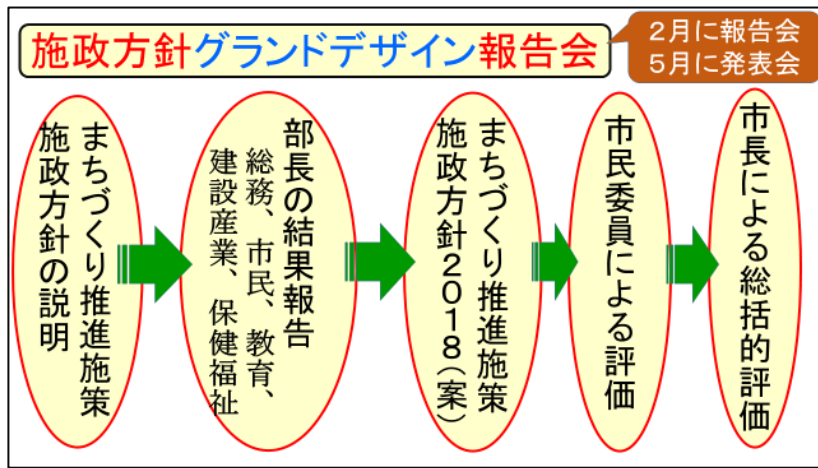
教育委員会は、過去 10 年間にわたって毎年 2 月には学校教育グランドデザイン報告会、5 月には発表会を継続して開催して来ました。その内容ですが、学校教育課がその年の学校教育施策を説明。そして、メインイベントですが、市内の 3 中学校、8 小学校の校長先生が 7 分間の持ち時間で子どもたちの変化などを中心に 1 年間の結果報告をします。短い時間でいかにポイントを絞り、わかりやすく伝えるか、大変工夫されています。さらに、学校教育課長が次年度のプランの案を説明します。教育委員の皆さ

んがそれぞれ感想を述べた後、教育長が講評を行います。1年間の経験の総括を深め、今後の課題を探るヒントを与えてくれます。これは毎回聞いていて、私も大変勉強になっています。この発表会には P T A 役員、民生委員、学校評議員、市長、副市長、市議員などが参加し、全体で 4 時間近いボリュームのある取り組みです。

市長はことし 2 月の報告会で来賓挨拶をされました。そこで、「校長先生方がこのように表明することは大切だ。自分を追い込むことでもある。これが教育立市につながっていると思う」と述べられました。市長はどんな思いでこの御挨拶をされたのですか。

○中村 隆象市長 教育立市という言葉掲げてですね、体を張ってそれに取り組んでおられる学校現場の方々に対する感謝の思いからああいう挨拶をさせていただきました。

○奴間 健司 私は市長の御挨拶を聞きまして、施政方針の報告会はもうこのスタイルをまねすればいいと思いました。画面をお願いいたします。これは、



についてはすごく関心があるということで、学校のグランドデザイン発表会のようにはなかなかいかないんじゃないかなという気もいたします。

○奴間 健司 市長の御挨拶の中で、表明することでみずから追い込み、これが教育立市につな

ついていると思うという言葉がございましたね。私、そこがポイントだと思います。市長も副市長も各部長も表明することでみずから追い込み、それが住みよいまちづくりにつながると思います。「あつものに懲りてなますを吹く」じゃなくて、もう一回原点に戻って仕組みをつくってはいかがでしょうか。

施政方針グランドデザイン報告会の私の案です。まずその年の施政方針を副市長が説明します。次に、メインイベントですが、各部長が健康づくりや産業、インフラ整備、そして教育などについて報告をします。次年度の施政方針の骨格について、副市長が説明します。教育委員会に該当する市民委員会の委員が感想を述べる。最後に市長が総括的評価を述べ課題や改良点などを深掘りします。報告会は公開で開催し、自治会、コミュニティ、文化スポーツ経済団体、女性や若者等の各種団体に参加してもらいます。

校長先生が毎年汗を流したように、市長、副市長、各部長も市民の前でわかりやすく説明するために汗を流したらいいのではないかなと。その姿は必ず市民に伝わると思います。いかがでしょうか。

○中村 隆象市長 結果的には、先ほど申し上げましたように、やったけど余り伝わらなかったなという思いがあります。それと、古賀市民はですね教育問題

○中村 隆象市長 部長のいわゆる目標管理といいますか、施政方針というか、そういうものは何らかの形で今後発表するようにしたいと思っております。

市長記者会見の中継・録画配信を

○奴間 健司 次に、市長の定期的な記者会見と動画の配信です。予定していないという答弁でした。昨年3月、市長は、手間暇がかかり、その他の業務に割く時間、エネルギーがそがれるという趣旨の答弁し。今回も同じ理由でしょうか。

○中村 隆象市長 それもありますけれども、今の時点で、それほどの意味といいますか、効果が期待できないんじゃない

いかというふうに思っています。今やっている記者発表で十分であるというふうに考えております。

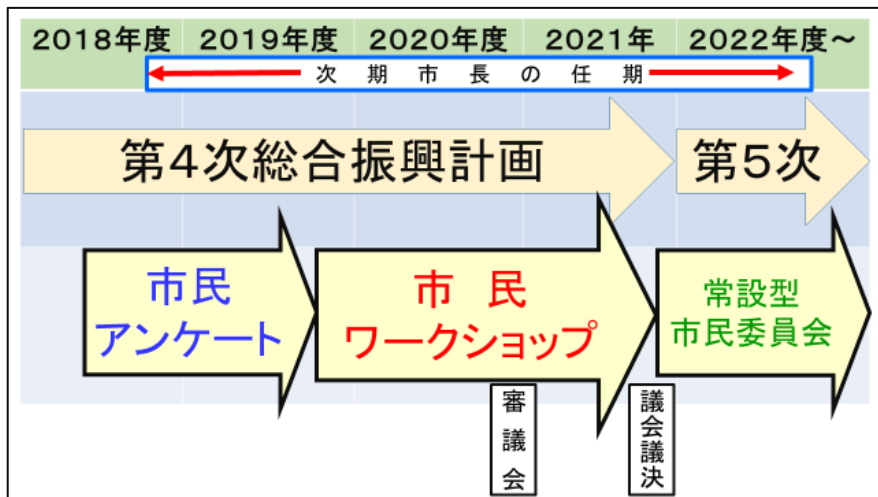
○奴間 健司 実は議会で提案するだけではなく、私も、2016年12月からみずからビデオレターを始めました。1年3カ月間で173本配信しまし

たが、再生回数4万5,000回を超えました。お金もかけず、現場の状況を伝えたいという思いで一生懸命つくった結果です。生の声、姿、特にですね、現場の状況をリアルに伝えることというのは、市民の方に大変私は喜ばれているのではないかと思いました。市長もみずからの声と表情で市民の方に語りかける。動画の配信は効果があると思いますがいかがでしょうか。

○中村 隆象市長 そういうことをやっている市は、まだまだ少のうございませぬ。そういう御意見もあるとは思いますが、古賀市ではそれを採用することは今のところは考えておりませぬ。

○奴間 健司 次に、市民アンケートの問題に移ります。

画面をお願いいたします。市民アンケートにこだわる理由ですが、まちづくりにとって基本的な計画である第4次総合振興計画は2021年度までで、2022年



度から第5次に入ります。通常3年前から次期計画の策定準備に取りかかる必要があると言われていています。とすると、2018年度から2019年度にかけて、市民アンケートで各政策に対する評価、重要度や満足度を聞く必要が出てきます。また、市民ワークショップで直接市民の声をお聞きし、2年ほどかけて効果的に取り組む必要があると思います。

次期市長には第4次マスタープランの検証と第5次の策定という大事な責務

次期市長の任期4年間には第4次の検証作業と第5次の策定という大きな課題、言い方を変えますと大変やりがいのある仕事があることがわかります。市長、このようなロードマップをあらかじめ描いておけば、誰が次の市長かに関係なく計画的で持続可能なまちづくりになると思いますが、いかがでしょうか。

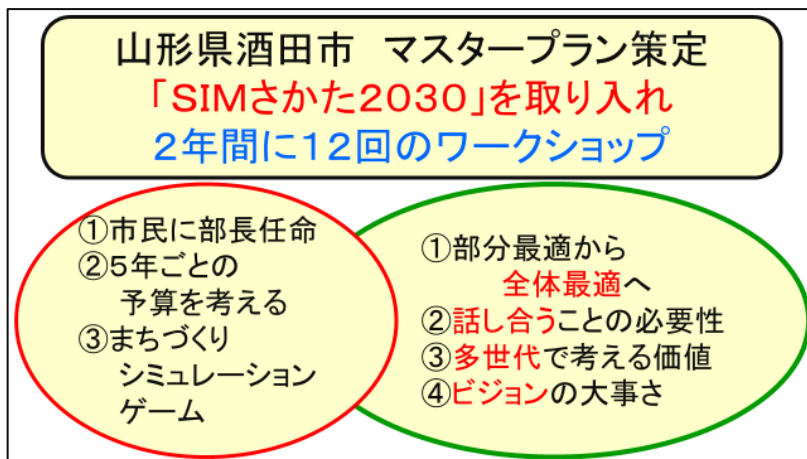
○中村 隆象市長 総合振興計画の策定に当たっては、企画課を中心として、

そこそこの計画をこれから立てるところですので、そのための一つの参考意見として承っておきたいと思います。

○奴間 健司 市民アンケートと同様に、市民の声を直接聞く機会として市民ワークショップが大切だと思います。

S I M2030 市民がワークショップ

画面をお願いいたします。



これは、山形県酒田市が 2018 年度、総合計画策定過程で取り組んだワークショップの特徴をまとめたものです。2年間に 12 回行っていますが、何が特徴かという、まちづくりシミュレーション、ローマ字で S I M2030 を導入したことです。市民が仮想の部長に任命され、5年ごとの予算を考える。行政からきちんと財政情報が提供されます。それをもとに何をビルドするか、何をスクラップするかを考えます。まさに新しいスタイルの市民ワークショップが始まったようです。

市長、これはぜひ研究の価値があると

思うんですが、いかがでしょうか。

○中村 隆象市長 これだけの情報ではちょっと判断もなかなか難しゅうございますが、これをそのままマスタープランに取り入れるわけにはいかない、一つの参考マスタープランとなるわけですから、それはどうなのかなという感じはいたします。

○奴間 健司 昨年 12 月 19 日の古賀市の庁議の記録を見ました。ここには S I M2030 福岡市の取り組みが紹介されたとあり、古賀市でこれに関する研修会を開催したいと記録されています。ということは、古賀市にも S I Mシミュレーションゲーム 2030 と

いう新しい手法については既に活用しようという動きがあるのでしょうか、いかがですか。



○星野 孝一財政課長 平成 30 年度中に古賀版をつくる予定としております。

○奴間 健司 市長はそれをどう思っ

てらっしゃいますか。

○中村 隆象市長 その内容については、私も詳しく聞いておりませんので、ちょっとなかなかいいとか悪いとか申し上げられません。しかし、いつも言うことですけれども、私どもは市民の意見というものは基本的に議会が代表されているものと思っています。その市民の意見をいちいちワークショップは開きませんが、度重なる議会、あるいは日ごろのやりとりの中で、これは市民の代表の意見だということでそれを受けとめて次の施策に反映するという作業を年がら年中続けております。それにかわるものとして、それを上回る、補完するものとしてどういうものがあるかということについては、いろいろな方法があると思います。

○奴間 健司 SIM2030 の最大の特徴は、情報の共有と対話、議論ですね。酒田市を紹介しましたが、財政情報を提供して、それをもとに市民の中から仮想の部長を選んで、何をビルドし、何をスクラップするかを議論する。これがワークショップの特徴です。いかがですか。

○中村 隆象市長 一つの意見、もしくは新しいアイデア、そういうものが出てくるということは考えられますから、全く無駄とは申しませんが、そのようなことを古賀市の予算編成の中で取

り入れるかどうかということはちゃんと検討していかなければならないということで、今ここでいいとか悪いとかというのは申し上げられないと思います。

○奴間 健司 酒田市は、早稲田大学マニフェスト研究所のマニフェスト大賞を受賞されたそうです。古賀市議会もこの研究所から大変ありがたい評価をいただいておりますが、今度は市政改革で九州沖縄ナンバーワンと言われるようなですね、すばらしい行財政運営をめざすべきじゃないかと私は考えています。

大きな2番目のテーマ、子どもたちの健康づくりに移ります。

小学生に肥満傾向児が多いのが特徴

先ほど、子どもたちの健康状態について肥満度の話がありましたが、それは要約するとどういう対策がこれから必要だということになりますか。



○中村 由果予防健診課長 小学生における肥満傾向児の多さというのは古賀市の特徴ではありますけれども、やは

り乳幼児期からの食生活、運動習慣というものの保護者とともに身につけていくということが重要だと考えております。

子どもの血液検査による実態把握を

○奴間 健司 ここで、糟屋郡宇美町の取り組みを紹介いたします。宇美町は、子どもたちの食生活の乱れ、肥満、痩身傾向などの改善の必要性を認識し、2016年7月から2017年1月にかけて、スーパー食育スクール事業を実施しました。希望する児童と保護者を対象に、2回の血液検査を行いました。その結果、保護者の約4割、児童の約3割が糖尿病の診断基準となるヘモグロビンA1Cの値が基準値を超えているということが判明しました。さらに、見かけは肥満傾向ではなくても血糖値が5.6以上ある児童が多数いることもわかったそうです。

子どもたちの健康状態は見かけだけでは把握できないということを示していると思いますが、市長、宇美町の取り組み、どう受けとめますか。

○中村 由果予防健診課長 古賀市におきましては、子どもたちの血液検査は実施しておりませんが、国民健康保険における成人の血液データを見ますと、やはりヘモグロビンA1C5.6以上、糖尿病のリスクがあると言われる所見の見られる方が50%を超えるなど、家庭環境、社会環境というのが糖尿病を招

きやすいという環境にあるということは承知しております。

また、血液データにあらわれないまでも、このたびヘルスアップぷらんの策定に伴いまして、市民アンケートを実施しましたところ、やはりゲームやスマホを使用する時間、メディアとの接触時間がふえた子どもの割合、それから生活リズムが夜型になっている。または運動不足みとか、あとは濃い味になれている子どもが増えている。また朝食を食べない、こういったデータが見受けられますので、やはり宇美町で実施されたような子どものデータというのは古賀市でも血液をとらないまでも状況としてはあるのではないかと認識しております。

○奴間 健司 私、早速宇美町の担当職員にヒアリングを受けてみました。学ぶべきだと思ったのは、実態把握もきちんとしていますが、その後の具体取り組みですね。「やるぞ、できた、続けよう、課題を解決」という「4つのUMIビジョン、UMI食育プログラム」というのを展開しているんですね。健診結果については、保健師、栄養教諭、管理栄養士による保健指導や食生活改善指導を行っています。予防健診課長が答弁していただきましたが、古賀市もぜひリアルに実態を把握し、具体的な対策を効果的に展開する。もちろん10カ条もこれから効

果をもたらすと思いますが、宇美町の取り組みに大いに学ぶべきだと思うんですが、市長どうお考えでしょうか。



○長谷川 清孝教育長 市長ということですが、宇美町のスーパー食育スクール事業のことが出ましたので私のほうからまずは答弁をさせていただきます。

これは既に古賀市では平成 25 年度、これは食育フェスタということで古賀東中学校で発表を行ったのでごらんになった方もおられると思いますが、栄養教諭を中核とした食育推進事業、これがもともとの事業であります。26 年度から文科省がこういうふうな名称に変えたわけで、古賀市はこの近隣では学校教育における体育、健康、食に関する指導については先進的に取り組んでいるというふうに思っております。

そういう中で、小野小学校が食育に関する表彰で県の優良表彰、それから全校

表彰を受けております。東中校区で受けたものをさらに北中校区、古賀中校区にも広げて、市としての食育推進にかかわっているところでございます。

今議員が言われました血液検査については、スーパー食育スクールのこれは大学との連携の中から、大学のほうから持ち込まれたものというふうに考えております。このスーパー食育スクールの本来の目的は、栄養教諭をいかに学校の中で活用して、日常的に学校だけではなくて家庭の中でいかに食育を推進するかということに使ってくださいますという事業です。宇美町の血液検査については全く否定をするものではありませんが、学校の中で血液検査を今後していくのかどうかわかりませんが、学校の中ですということにいかがかなというふうなのが私の見解でございます。

○中村 隆象市長 宇美町でもいろいろな市、町でもアイデアを凝らして、いろいろな取り組みをして、いい結果を上げるということはそれはもう立派なことだと思います。しかしながら、奴間議員の言葉をかりて申し上げますと、リアルに実態を把握し、具体的な施策に結びつけていく。まさに古賀市は今それをやっておるわけございまして、全体的な取り組みとして古賀市の健康づくりというものは他市町に劣るものではないとい

うふうに考えております。

教育委員会と保健福祉部の連携を

○奴間 健司 教育委員会の取り組みと健康づくり課、保健福祉部の連携がですね、宇美町非常にしっかりやっておられるということがございます。

これは松本市、たびたび紹介しましたが、ここも「まつもとっ子元気アップ事業」というのがありまして、小学校4年生と中学2年生を対象に、既に血液検査を実施しています。地区担当保健師が年1回、各学校を回って健康教育を行っています。最近、新たにびっくりしたことがあります。松本市の教育委員会の会議録を見ました。そしたら、教育委員会の定例会に健康づくり課の保健師が出席しているんですね。そこで「まつもとっ子元気アップ事業」について報告をされていまして。松本市は歩数計で子どもの歩数も実態調査しています。専門家によると、子どもの場合、1日大体1万5,000歩歩いてもいいぐらいだと。ところが実態調査したら1万歩にも満たない。特に中学2年生の女の子は特に少ないという実態がわかった。中学校よりも保育園、小学校の低学年の小さい時期から体を動かし、運動を好きになろう、こういった取り組みが効果的だということをやっています。まさに保健福祉部と教育委員会の連携が功を奏していると

思うんですが、古賀市でもこういった連携プレーが必要と思いますが、市長いかがお考えでしょうか。

○中村 隆象市長 先般来、松本市の取り組み、いろいろ紹介していただきまして、それは参考にさせていただきたいと思います。教育委員会と保健福祉部の連携が必要ではないかと。それは必要なときはあると思います。そういうときは連携をとればいいと思っています。ちなみに、古賀市では今保健福祉2035といえますか、2035年をめざして総合的な健康づくりをしていこうということで、私本部長となって庁内横断的に市民全体の健康づくりについて協議しているところでございます。

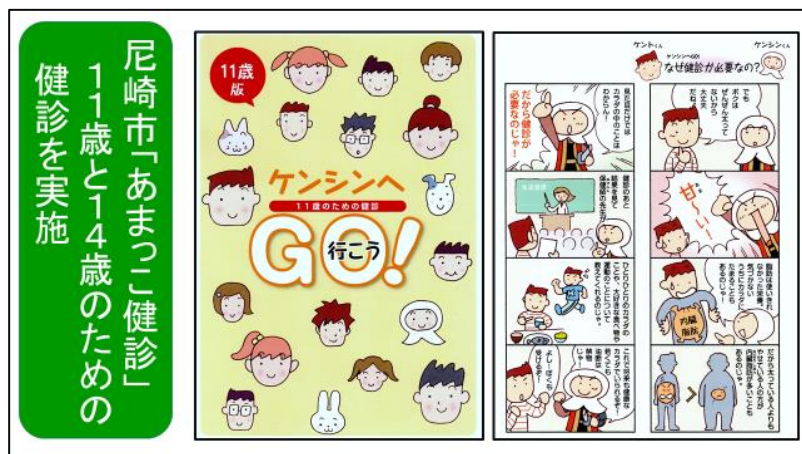
○奴間 健司 古賀市にもすばらしい取り組みがありまして、2月15日の学校教育グランドデザイン報告会で、舞の里小、「舞っ子体力アップチャレンジ2017」に私も注目しました。1年生はドッジボールラリー、2年生はジグザグ走など、各学年で取り組み、筋肉をつけることですね。運動が好きになった子が95%もいる。先生が運動を勧めるようになったのが69%にアップしたなどが具体的に報告されていまして。こういった学校の取り組みというのは実は医学的にも裏づけられた、子どもの健康を守る。そのことはひいては生きる力、基礎学力

にもつながるという意味では非常に重要な取り組みだと思えます。こんなことをもっともっと、小野小もそうだと思いますが、全市に広げていく必要があると思えます。教育長も市長も何かお考えがあればお答えいただきたいと思えます。

○長谷川 清孝教育長 舞の里小の件が出ましたけれども、ランドデザインについては、私が集約をして一つの項目をできるだ

け報告をなささいというふうなことで、たまたま知徳体食育の中で舞の里は体育について触れたという御認識でいただきたいというふうに思っております。11の小中学校とも全て1学校1取り組みということで、体力向上に向けての取り組みは全てやっております。例えば、青柳小学校で言えば毎週月曜日の青小体操、歩いて登校、元気ウォーキングというふうなのをやっております。それから、小野小学校は歩いて登校運動、体力テストチャレンジ週間、西小学校は年間を通した縄跳びカードをつくって体力向上というふうなことです。舞の里は毎週月曜日の舞の里体操、中学校も同じです。既に、恐らく県内でもすぐれた体力向上の取り組みがなされていると思っております。特に28年度の全国体力状況調査におきましては、小5、それから

中2とも全国、県を上回っております。
○奴間 健司 もう一つ、きょうは兵庫県尼崎市の例を紹介します。



画面をお願いします。尼崎市では、2010年から11歳小学校5年生と14歳中学校2年生を対象に特定健診を無料で行っています。「尼っ子健診」という名称です。ホームページを見ましたら、「健診へGO」といかにも子ども向けに呼びかけています。漫画でも説明していただいて、けんた君が「僕は全然太っていないから大丈夫だよ」と言うと、けんしん君が「甘い」と喝を入れている漫画でした。これはなぜ11歳、14歳の健診が必要かを説明している画面です。尼崎市でも子どもの健診の結果、約6割が高血糖、高血圧、高尿酸など、何らかの所見があることがわかった。心筋梗塞や脳卒中を予防するためには健診が大事だよということを知りやすく説明しています。私は、これを見てすぐにでも尼崎市に飛んで調査研究したいと思いました。

市長、こういった情報を紹介しましたが、いかが受けとめるでしょうか。

○中村 隆象市長 同じようなことになりませんが、日本全国でいろんな自治体がそれぞれ知恵と工夫を凝らして健康づくり、教育、いろんなことに取り組んでおられます。その中にはいい例もあると思いますし、古賀市には合わないものもあると思います。ですから、そういうことを勉強することはやぶさかではございません。だからといって、そのまますぐそれを古賀市に取り入れるということではないと思いますので、そのように御理解をいただきたいと思います。

○奴間 健司 私は、早速尼崎市の担当者に電話かけてヒアリングを受けました。「ひと咲きまち咲き担当局・ひと咲き施策推進部・健康支援推進課」、これはフルネームですが、非常に素敵な名称だなと、古賀市もこのような素敵な名前に変えなくちゃいけないなと感じた次第です。説明によると、子ども対象の健診は保護者と一緒に夏休みや冬休みに希望者が受診します。2017年度では11歳が40%、14歳が22%という受診率でした。財源はもちろん一般財源であり、受診した児童生徒は全員保健指導を受けることになっています。

私ごとで恐縮ですが、私の息子家族は尼崎市に住んでいます。昨年5月に子ども

もが生まれました。つまり私の初孫です。子どもを本当に大事にしてくれるところを選んで住んでくれてよかったなど、これは本当に率直な私の気持ちでした。

2019年度からの小中学生対象の健診導入に向けて準備を始めたかどうかと提言したいと思うんですが、市長いかがでしょうか。

○中村 隆象市長 何度も申し上げますが、それぞれの市町でそれぞれの特色を出して、いろいろ頑張っておるわけです。子どもの教育に関しては古賀市はくどいようですが、教員の人的支援にも相当な市の単費を使ってやっております。恐らく尼崎市ではそれはないと思います。そういう中で、あれもこれもというわけにはいかないということも御理解をいただきたいと思います。

○奴間 健司 ピロリ菌検査の話に移ります。ことし2月26日の西日本新聞に「ピロリ菌退治で胃がん予防、保険の適用拡大から5年」という見出しの記事がありました。市長はこの記事、目にとまったでしょうか。

○中村 隆象市長 読んでおりません。

○奴間 健司 また、あれもこれもの話をしましょう。記事の中に大分県臼杵市のことが紹介されていました。そこで、私は早速電話をかけてヒアリングを受けました。担当の方は保健師さんで、と

でも丁寧に説明してくれました。

画面をお願いいたします。臼杵市は、2015年度から20歳を対象に公費検査を始めました。しかし検査率5%と低迷

大分県臼杵市 中学2年生対象にピロリ菌検査
2015年度 20歳対象にピロリ菌公費検査 検査率5%と低迷
2017年度 中学2年生対象にピロリ菌公費検査 検査率90% 約5%に感染確認

しました。そこで、2017年度からは中学2年生の学校健診で実施、同意を取りつけ、尿検査でピロリ菌検査を追加しました。陽性の生徒は、夏休みに2次検査として尿素、呼気試験、これは私も最近やったばかりですが、極めて簡単な試験でした。そこで陽性になった生徒については自己負担で除菌を勧めているようです。検査率は何と90%、2次検査の結果約5%の生徒に感染が確認されたそうです。予算は、臼杵市の場合ですが、約90万円で済んだそうです。

市長、いかがですか。あれもこれもではなくて、これはやったほうがいいんじゃないかとお示ししたいと思います。早速調査し早急な実現に向けて着手してはどうでしょうか。

中学生対象のピロリ菌検査を

○中村 隆象市長 まず基本的にです

ね、健康というのは自己管理、自己責任だというのが原則であると思います。ただし、ほっておくとめぐりめぐってですね、医療費の増大につながって、これは

公的にはちょっと問題だということもありましようから、市の補助を出して検査をするとか、そういうことは政策上あると思います。しかし、まずは健康管理は自己責任、その中で限定的に効果的なものを選んで公費助成をやるというのが考え方

の基本だと思っておりますので、そのような中でこのことも検討していきたいと思います。

○奴間 健司 古賀市でも20歳を対象、成人式でピロリ菌検査導入しましたが、その結果の評価はいかがですか。

○中村 由果予防健診課長 毎年度対象者につきましては600名を超える対象者がいますが、受診者については昨年度が89名、今年度がまだ集計途中ではございますが65名ということで、受診率につきましては10%程度というところでございます。

そのうち、除菌を行っている人数につきましては、現在のところ確認はできておりませんが、2次健診のほうに対象となった人が4人、今年度いるというような状況です。

それから、先ほど臼杵市のほうの例を

出されましたけれども、実際本当に受診をされるパーセントだけではかれるとは私たちは考えておりません。といいますのは、20歳に対してピロリ菌の除菌を公費で実施するという狙いの一つは、やはり20歳になってこれから成人期に入っていく方々に、やはりこれから今後自分の健康を自分で守る、予防していく、健診の大切さを知っていただくという啓発がやはり半分含まれております。ですから、除菌をしなかった、検査をしなかったという方についても、こういったメッセージをお届けする機会として私どもは活用しているという状況です。

○奴間 健司 臼杵市の担当者はこんなことも言っていました。除菌は本人の胃がん防止になるだけじゃなくて、子どもが受けたことで親にも影響して、親もじゃあ受けてみようということで、非常に効果が大きい。90%検査してその効果です。古賀市では受診率が10%で放置しといていいのかという問題があると思いますね。

長野県松本市も来年度から市内在住中学2年生に対して新たに検査を実施するそうです。古賀市でもやはり20歳だけでとどまるのではなく、対象拡大に向けた準備、着手したらどうかと思いますが、市長、いかがでしょうか。

○中村 隆象市長 医師会との懇談の

中でも、あれをやったらどうか、これをやったらどうかといろいろな意見が出ております。それをですね、一者選択、あるいは全部選択しない場合もありましょうが、そういう中での判断になると思いますので、今ここで、ピロリ菌だけを取り上げてやるとかやらんとかいう話にはならないと思います。

子どもの健康づくり・予防は古賀市の持続可能な成長に必要な不可欠

○奴間 健司 今回、子どもの健康を取り上げた理由は、やはり将来を見据えたときに子どもに対して効果的な対策を早目に実行することが、将来必ず生きてくる。持続可能な古賀市の成長につながる。古賀市の経済、全ての基礎になるということを申し上げたいので、血液検査だとかピロリ菌検査とか具体例を挙げながら提案しているんですよ。返ってくる答えは、あれもこれもではなくてという、じゃあどこに一体焦点絞るんですか。持続可能な古賀市の成長のために何が肝心ですか。私はそこを呼びかけたいんですね。市長、いかがですか、何を優先していきますか。

○中村 隆象市長 古賀市では、健康づくりについてはあらゆる年代での健康づくりをやるというのが基本方針でございます。生まれる前からいろんな形でケアをすると。小学校に入ったら小学校

の中でそれぞれ児童生徒の健康づくりをやるということで、今何もやっていないということでは決してございません。いろんな健康づくりを、各年代において古賀市は取り組んでおるところでございます。

○奴間 健司 今回の質問に向けていつものことですが、私、宇美町、尼崎市など必死で連絡したりして準備してきたんですね。その辺のことが伝わりますかね、市長に。それだけ、あちこちで取り組まれている先進事例を集めて、きょう紹介しているんですが、案外返ってくるリアクションがちょっと冷たい。「よくそこまで調べてくれましたね」ぐらい、一言お世辞でもいいから言ってほしいんですが、いかがですか。

○中村 隆象市長 よく調べていただいてありがとうございます。全部やるとパンクしますので、全部やりますとは言えませんので、御理解いただきたいと思えます。

○奴間 健司 市長の笑顔を見て、私ほっとしました。

今申し上げたことは恐らく市長の任期を考えますと、全てを形にするのはそもそも難しい時期だと思います。ただし、これは古賀市なりの継続性、新たな挑戦をやっていいと思うんですね。選挙があれば当然選挙になります。しかし、中村

市長の任期中に下準備を仮に進めていただければ、市長が継続すればもちろん、あるいは誰かほかの方が市長になってもですね、2019年度にスムーズに新しい政策を実現できます。

次期市長が誰であれ、市民の幸せのために任期中に下準備をしたらどうか

選挙で選ばれた人がゼロからやるということは、市民にとっては極めて不幸なことです。私がきょう紹介したことは、誰が市長であれ実現したほうがいいと思うことを取り上げています。ですから、ぜひ残りの任期中ですね、続投するかどうかは知りませんが、下ごしらえ、下準備は計画的に虎視眈々とやっていただきたいということを新しい視点で申し上げますが、いかがでしょうか。

市長があれやれこれやれではない。所管課が企画立案するもの（中村市長）

○中村 隆象市長 ちょっと勘違いしておられるような気もしますが、あらゆる政策のほとんどは、市長があれやれこれやれと言っているわけではなく、所管課を中心にですね、企画立案してそれを積み上げてきてやっているものがほとんどなんですよね。ですから、市長が変わったからどうのとかということではほとんどない。それが行政のあるべき姿だと思います。

ということですから、別に私がやれと

言わなくてもやるべきことはやりますし、やるべきじゃないものは私が言ってもそれはだめですと言うのが職員のあり方だと思います。

○奴間 健司 私が紹介したような事例を見ますとね、やっぱりトップがやろうという場合もあるし、現場からやろうとって、それを絶対トップが抑えつけない、結果俺が責任とると、こういう場合もあると思います。市長のリーダーシップとは絶対必要だと思いますが、いかがですか。

組織はボトムアップが理想（中村市長）

○中村 隆象市長 私は行政組織のあり方は、いわゆるボトムアップが理想型だと思います。トップダウンというのはですね、乱用するものではない。たまにあってもいいと思いますけども、そういう組織、そういう市役所をつくるのが私はベストだと思っております。

市長のネットワーク、情報収集力、リーダーシップが不可欠

○奴間 健司 市長自身のネットワークとか情報収集力、そして特に何よりも古賀市の市民の健康、古賀市の経済を守るために必死になってやる姿、それが職員を動かす場合もあると思いますよ。それがなければ職員の中にどんな意識があっても形にならない場合もあると思います。どっちが先かといえ、どっちも

大事だと思いますが、市長の情報収集力や情熱、これはやっぱり必要不可欠だと思うんですよね。それは決して上からトップダウンだということではないと思いますが、どうでしょう、ちょっと言いたいこと伝わったでしょうか。

○中村 隆象市長 伝わってないかもしれませんが、何か、いかにも私が情熱もなくやるべきことをやってないように聞こえますけども、決してそのようにことはございません。

○奴間 健司 ぜひ宇美町や、あるいは尼崎市、臼杵市のような事例については、今度4月以降の人事異動の内示も示されて、担当の部長、課長、交代されます。今までの部長、課長にも本当に敬意を表したいと思うんですが、ぜひ新しい体制になったらゼロから勉強しましょうではなく、その人たちをさらにつないでいくためにはトップのマネジメントというのは必要だと思います。どうでしょうか。そこはぜひ市長の役割だと思いますが、いかがですか。

○中村 隆象市長 ちょっとよくわかりませんが、新しい体制になったらゼロから出発しようなんていうことはそもそもやっていないと思います。今でも職員は知恵を絞ってですね、体を張ってぎりぎりの施策を毎日展開しておるわけですから、それを助けて

やる、あるいは元気づける、あるいは助言するというのもトップの大事な仕事だと思います。

○奴間 健司 市長は副市長じゃないわけだから、事務方を取りまとめるのではなくて、市民の負託を受けた市民の命とか健康を守るためにみずからどんな公約を持っているのか、それを実現するために職員力を発揮するんですよ。そこがないということになりませんか、そうなる。いかがですか。

○中村 隆象市長 先ほども言いましたけれども、組織の理想型はボトムアップだと思います。それは職員がみずから勉強し、奴間議員の御紹介のあったようなものもですね、これはいいと思えばみずからそれを研究して、所管課でもみ上げて市長まで上げてくると。こういう形がベストでございますから、いちいち私があれやれ、これやれと言うのが多くなり過ぎては、かえって害があると思っております。

○奴間 健司 まとめですが、冒頭にきょう V ファーレン長崎の高田社長を紹介しました。社長が変わればチームが変わる。まちづくりも同じでトップが変わればまちが変わると思います。

ぬま健司のプロフィール

- 1952年4月17日生まれ。
- 千葉大医学部中退。
- 1995年町議初当選。市制施行に関わった唯一の議員となる。町長・市長選にも挑戦。5回連続でトップ当選し現在6期目。議運（副委員長）と市民建産委員会に所属。
- 2011年5月～2015年5月、市議会議長として議会改革に取り組む。早稲田大学マニフェスト研究所の議会改革度調査で古賀市議会は2014年度から3年連続九州沖縄で第1位と評価。
- 2011年に自治功労者表彰を授章。
- 「千鳥が池を愛する会」で千鳥小の自然観察会をゲストティーチャーとして支援。
- 「地域医療と市民を結ぶ会」（大岩俊夫代表）の事務局長。
- 妻（社会福祉士）、息子（義肢装具士・尼崎市在住）、娘（管理栄養士）の4人家族
- 趣味は写真、コカリナ演奏など。

<編集後記> 私は一般質問の全記録を冊子にまとめ、今回で第10弾となります。今年の夏までにこれまでの政策提言をもとにマニフェストにまとめます。まちづくりに役立つことを願っています。また、これから市議に挑戦しようという方や職員として頑張っている方々の「参考書」になれば幸いです。ご感想、ご提案をお願いします。次期市長選挙日程が11月18日告示、25日投開票と決まりました。

「2018.3.20 ぬま健司の提言詳報（第10弾）」

発行 2018年6月1日

奴間健司事務所 〒811-3113

福岡県古賀市千鳥2-3-7 安部ビル103

電話・fax 092-944-2639